

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立石神井高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭、(第1学年主任)、主幹教諭（3学年主任）、生活指導主任、進路指導主任、総務主任、第2学年主任 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者（東京女子体育大学教授、東京家政学院大学客員教授）、同窓会副会長、PTA会長、PTA顧問、近隣中学校長（練馬区立関中学校長）、消防署長（石神井消防署関町出張所長）、地域消防団団長（石神井消防団分団長）、社会福祉士（障害者支援施設やすらぎの杜施設長）、 計9名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月15日（木）内部委員10名、協議委員9名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和5年11月16日（木）内部委員10名、協議委員9名
学校評価アンケート結果、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、意見交換
 - 第3回 令和5年2月15日（木）内部委員10名、協議委員7名
学校評価総括及び提言、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月16日（木）内部委員1名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けたアンケート案の検討
 - 第2回 令和5年11月16日（木）内部委員1名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容、結果の確認、分析方法についての確認
 - 第3回 令和6年2月15日（木）内部委員1名、協議委員1名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討
来年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・10月 全校生徒 761人／867人 回答率：87.8% 前年度より0.7ポイント減
 - ・10月 保護者全員 302人／832人 回答率：74.3% 前年度より38.0ポイント増
 - ・10月 教職員 50人／50人 回答率：100% 前年度より25.0ポイント増
- (3) 評価項目
学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動、健康・安全、施設・設備、教育、事務関係／ライフ・ワーク・バランス、PTAの推進に分類し、27の評価項目を設定。
- (4) 評価結果の概要
 - ・評価アンケートの回答選択肢において、「あてはまる」と「ややあてはまる」を肯定的な回答、「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を否定的な回答として結果を検討した。
 - ・多くの生徒・保護者が学校行事や部活動、学校の生活指導や進路指導が充実しており、入学してよかったと評価している。

- ・授業の分かりやすさでは生徒と教員の回答に乖離があり、指導と評価の一体化を進め、個別最適な学習となるよう、教材や指導法についての研究を重ね更なる授業改善が必要である。

(5) 評価結果の分析・考察

ア) 学校生活に関する項目

- ・「私は石神井高校に入学してよかった」、「石神井高校での生活は生徒の夢や希望を実現する将来にとって有益である」については、昨年度に続き、生徒・保護者・教職員共に肯定的な回答がきわめて多い。更に向上させるよう取り組んで行く。

イ) 学習指導に関する項目

- ・「授業は教え方や教材の準備が工夫され、とても分かりやすい」については、教職員の肯定的な回答と生徒の肯定的な回答に 20 ポイント以上の乖離がある。指導と評価の一体化を進め、授業評価アンケート等をもとに更なる授業改善が必要である。
- ・「私は家庭で予習・復習を行い、毎日の授業に臨んでいる」は、生徒・保護者・教職員共に肯定的な回答が少ない。家庭以外の塾や予備校、学校に遅くまで残って勉強している生徒もいるが、自主学習が定着していないと生徒・教職員の約半数が考えており、本校の大きな課題となっている。

ウ) 生活指導に関する項目

- ・3項目とも生徒・保護者・教職員の肯定的な回答が多い。生徒・保護者共に、安心・安全な学校であると評価している。

エ) 進路指導に関する項目

- ・3項目とも生徒・教員の肯定的な回答は多いが、保護者の肯定的回答が若干低くなっている。保護者対象の進路講演会を学期に1回以上実施し、昨年度よりは肯定的回答は増えたが、まだ十分とは言えない。入学当初より3年間を見据えた、保護者対象の情報提供・講演会の機会をさらに充実させ、学校と家庭がスクラムを組んで希望進路実現に向かっていく姿勢を示すことが必要である。

オ) 特別活動に関する項目

- ・どの項目も生徒・保護者・教員の肯定的な回答が極めて多く、学校行事を中心とした特別活動が、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、様々な困難にも挑戦していく精神を醸成する本校の特色として高い評価を得ている。
- ・「学習と部活動の両立」については、昨年に比べると生徒・保護者・教職員共に肯定的な回答が大きく増加している。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変わり、大きな制限なく部活動に取り組めるようになったことが原因と考えられる。高度に文武二道の両立が実現できるよう、家庭学習時間を確保した部活動を実践していく。

カ) 健康・安全に関する項目

- ・安全教育と相談体制に肯定的な回答は極めて高い。保護者の肯定的な回答も 30 ポイント近く向上している。担任教諭を中心として行う丁寧で地道な組織的指導と相談体制が保護者の信頼につながっている。本校が命の尊さを学び安心して過ごせる居場所であることを情報発信の方法等を工夫して、さらに広めていく。

キ) 施設・設備に関する項目

- ・施設・設備に関する肯定的な回答は、生徒・保護者・教職員共に多いが、清掃状況に関しては、生徒・教職員共に肯定的回答が減少している。教育活動の基本として、「場を清める」活動を充実させていく必要がある。

ク) 教育に関する項目

- ・本校のスローガンである「チーム石神井で文武二道の両立」の認知度が、生徒・保護者共に 100% に達していないこと、意識することなく教育活動を行っている教員が僅かながら存在していることは大きな課題である。高度に文武二道の両立を実践できるよう、生徒・保護者・教員がチームとなり、教育活動を行っていけるよう、さらなる努力を継続していく。

ケ) 事務関係に関する項目

- ・経営企画室の対応について、生徒・保護者共に肯定的な回答が多く、信頼される学校事務を運営できている。

コ) ライフ・ワーク・バランスについて

- ・定時に退勤できている教員が少なく、また休暇の取りやすさでも 30% 近くの教員が否定的な回答をしている。男性教員の育児休業取得や出産支援休暇・育児参加休暇の取得を推進し、取得している教員も複数いるが、業務の効率化と平準化をさらに進める働き方改革を実践する。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・保護者の回答数が増え、保護者の声を学校運営に生かしていくことができるようになった。
 - ・教員の感覚と生徒・保護者の感覚の違いが明確となった。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
- ・年々改善されてきてはいるものの、ライフ・ワーク・バランスについて教員の否定的な回答が多い。業務の効率化と平準化、超過勤務時間の縮減、外部人材の活用等、実効性のある働き方改革を実践する。
 - ・更なる授業改善及び自主学習時間の確保と部活動を中心とした特別活動をバランスよく実施し、真の文武二道の両立を高度に達成できるよう、組織的な教育活動を実践する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学校運営
- ・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。
 - ・生活指導、進路指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。
- (2) 学習指導
- ・指導と評価の一体化をもとにした授業改善の実施。
 - ・自学自習環境の整備。
- (3) 特別活動
- ・3年間を見据えたHR計画の策定と実施。
 - ・自己有用感を高められる学校行事、部活動の実施。
- (4) 生活指導
- ・いじめや暴力を絶対に許さない環境の構築。
 - ・ルール・マナーを遵守する精神の醸成。
- (5) 進路指導
- ・生徒一人一人の個に応じた進路指導の実施。
 - ・進路情報について保護者への提供方法の改善。
- (6) 健康・安全
- ・相談体制のさらなる充実。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 9人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	4	1				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人
 【成果】 職員会議・企画調整会議への参加はなし。

8 その他

- ・今年度より Forms によるアンケートを実施し回収率が大きく下がってしまったため、対策を考える必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、本校の教育活動についての情報発信の機会を増やしていく。